

はじめに	2
重要な特記事項.....	2
Snowflake PowerCenter の参照を無視する.....	2
サポートの終了.....	2
サードパーティサポートの更新 (10.5.8)	3
インストール.....	3
インストールおよびアップグレード.....	3
アップグレードパス (10.5.8)	4
アップグレードした後に	5
10.5.8 で修正された問題.....	6
Data Engineering Integration の修正された問題 (10.5.8)	6
Enterprise Data Catalog の修正された問題 (10.5.8)	6
Informatica Analyst の修正された問題 (10.5.8)	8
Informatica Data Quality の修正された問題 (10.5.8)	8
オンプレミス接続の修正された問題 (10.5.8)	9
PowerCenter の修正された問題 (10.5.8)	9
プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題 (10.5.8)	10
Test Data Management の修正された問題 (10.5.8)	11
10.5.8 の既知の問題	11
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (10.5.8)	11
ドメインの既知の制限事項 (10.5.8)	12
Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (10.5.8)	12
Informatica Data Quality の既知の制限事項 (10.5.8)	12
10.5.8 に統合された緊急バグ修正.....	12
累積的な既知の制限事項	13
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (累積)	13
Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (累積)	13
Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (累積)	13
オンプレミス接続の既知の制限事項 (累積)	14
サードパーティ製品に関する既知の制限事項 (累積)	15

はじめに

Informatica 10.5.8 は、複数の緊急バグ修正、制限された機能、既知の問題、およびバグ修正に関する情報を含んだ HotFix リリースです。

HotFix は、PowerCenter、Informatica Data Quality、Data Engineering 製品、Data Catalog 製品、Data Privacy Management、Enterprise Data Preparation、および Test Data Management 製品をサポートします。

この HotFix は Linux および Windows で利用可能で、[Informatica Network](#) からダウンロードすることができます。

注: 更新された機能がガイドに含まれていない場合でも、製品ドキュメントはメジャーリリースごとに更新されます。更新された機能がガイドに含まれている場合にのみ、サービスパックと HotFix の製品ドキュメントが更新されます。サービスパックまたは HotFix のガイドが見つからない場合は、以前のバージョンを参照してください。

重要な特記事項

Informatica 10.5.8 リリースには、次のような重要な特記事項が含まれています。

Snowflake PowerCenter の参照を無視する

ガイド内の PowerCenter の Snowflake への参照は無視してください。

PowerCenter の Snowflake に関連する以前の参照（ある場合）は、古くなっており無効です。PowerCenter は、現在のバージョンまたは以前のバージョンでは Snowflake をサポートしていません。

サポートの終了

Informatica 10.5.8 リリースには、次のようなサポート終了の通知が含まれています。

Mapping Analyst for Excel のサポートの終了

バージョン 10.5.8 以降、Informatica では Mapping Analyst for Excel のサポートを終了しました。

サポートされている類似の機能を使用する場合は、Mapping Architect for Visio (MAV) を使用できます。MAV の詳細については、『*PowerCenter® Mapping Architect for Visio ガイド*』を参照してください。

Amazon S3 V1 スキャナでのデータレビューおよびデータプロビジョニングのサポートの終了

バージョン 10.5.8 以降、Informatica では Amazon S3 V1 スキャナでのデータレビューおよびデータプロビジョニングのサポートを終了します。

Microsoft SQL Server リソースでのストアドプロシージャおよび関数フィルタのサポートの終了

バージョン 10.5.8 以降、Informatica では Microsoft SQL Server リソースでのストアドプロシージャおよび関数フィルタのサポートを終了しました。

ストアドプロシージャおよび関数フィルタは、[MS SQL Server リソースの設定] ページに読み取り専用オプションとして表示されます。ストアドプロシージャおよび関数をフィルタリングするには、ストアドプロシージャおよび関数フィルタの代わりにソースメタデータフィルタを使用できます。

ストアドプロシージャおよび関数フィルタの詳細については、『*Informatica Enterprise Data Catalog スキーマ設定ガイド*』を参照してください。

サードパーティサポートの更新 (10.5.8)

バージョン 10.5.8 では、Informatica クライアントアプリケーションに、次のようなサードパーティツールと標準のアップデートバージョンが必要です。

Transport Layer Security プロトコルバージョン 1.3

バージョン 10.5.8 以降、Informatica アプリケーションおよびサービスは Transport Layer Security (TLS) プロトコルバージョン 1.3 を使用します。

詳細については、Informatica Network にある Product Availability Matrix を参照してください:

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>。

インストール

バージョン 10.5.8 でのインストールとアップグレードについては、このセクションを確認してください。

インストールおよびアップグレード

Informatica バージョン 10.5.8 は HotFix リリースです。このバージョンは、統合インストーラの一部として、PowerCenter、Informatica Data Quality、Data Engineering 製品、データカタログ製品、Data Privacy Management、および Test Data Management 製品をサポートします。Test Data Management と Data Privacy を使用するには、HotFix の適用に加えて、サービスのアップグレードが必要です。

Informatica バージョン 10.5.8 は、次のいずれかのインストール方法で使用できます。

- 新規インストール
- サポートされているバージョンからのアップグレード
- 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に HotFix を適用する

HotFix を製品にインストール、アップグレード、または適用する手順は、各製品の個別のガイドに記載されています。

アップグレードパス (10.5.8)

実行するアップグレードパスは、アップグレードする製品に応じて異なります。直接アップグレードをサポートしていないバージョンを使用している場合は、サポートされるバージョンに先にアップグレードしておく必要があります。

次の表に、インストーラでサポートされる各製品のアップグレードパスを示します。

製品	バージョン
PowerCenter	サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。 以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.8 にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1
Informatica Data Quality	サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。 以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.8 にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1
Data Engineering Integration Data Engineering Quality	サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。 以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.8 にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2.1- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2.2- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1 重要: Informatica インストーラでサポートされている他の製品と同じドメインに Data Engineering がある場合は、10.5.8 にアップグレードする前に、すべての製品がサポートされている同じアップグレードバージョンにアップグレードされていることを確認してください。
Data Engineering Streaming	サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。 以下の以前のバージョンからバージョン 10.5.8 にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">- HotFix、サービスパック、または累積パッチを含む 10.2.2- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1
Data Privacy Management	サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。 以下の以前のバージョンからバージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用できます。 <ul style="list-style-type: none">- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4- サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1

製品	バージョン
Enterprise Data Catalog	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、または 10.5.4 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4 - サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1 <p>重要: Enterprise Data Catalog と Data Engineering が 10.4.1、10.4 より前のバージョンの同じドメインにある場合は、10.5.8 にアップグレードする前に、それらをバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、または 10.5.4 にアップグレードしてください。</p>
Enterprise Data Preparation	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、または 10.5.6 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、または 10.5.4 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4 - サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1
Test Data Management	<p>サービスパックまたは累積パッチを含むバージョン 10.5、10.5.1、10.5.2、10.5.3、10.5.4、10.5.5、10.5.6、または 10.5.7 に対して 10.5.8 HotFix を適用できます。</p> <p>以下の以前のバージョンからバージョン 10.5 にアップグレードしてから、10.5.8 HotFix を適用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4 - サービスパックまたは累積パッチを含む 10.4.1

アップグレードした後に

10.5.8 にアップグレードした後に、設定後のタスクを完了します。

アップグレード後のリソースエンリッチメントの一括エクスポート

Enterprise Data Catalog をアップグレードした後、リソーススキャンを再度実行する前に、複数のリソースからエンリッチメントを一括エクスポートできます。

エンリッチメント移行ユーティリティを使用して、一括エクスポートを実行します。

リソースエンリッチメントの一括エクスポートの詳細については、『Enterprise Data Catalog のアップグレードガイド』を参照してください。

PowerCenter Oracle マッピングのアップグレード後の変更

10.5.8 にアップグレードした後、PowerCenter の既存の Oracle マッピングを再実行し、接続の割り当てワークスペースでユーザー接続を手動で再割り当てします。Oracle マッピングの接続名が <connectionname>.<schemaname> に更新され、データベースレベルで割り当てられます。

自動接続割り当ての場合、Catalog Administrator が PowerCenter の Oracle マッピングの接続をデータベースレベルで割り当てます。

Post-Upgrade Changes for Informatica PowerExchange for PostgreSQL

Register the postgres_Plugin.xml

After you upgrade to 10.5.8, the PostgreSQL mappings might fail unless you register the postgres_Plugin.xml again.

10.5.8 で修正された問題

このセクションには、10.5.8 で修正された問題と拡張要求が含まれています。

Data Engineering Integration の修正された問題（10.5.8）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-31433	式条件に LPAD または RPAD を含めると、式トランスフォーメーションで一貫した結果が得られない。
BDM-42577	Spark エンジン上の HDInsight 5.1 WASBS 非 Kerberos クラスタでマッピングを実行すると、マッピングが失敗し、次のエラーが発生する。 \$INFA_HOME/services/shared/hadoop/HDInsight_5.1/spark/bin/infa-spark-class: line 86: exec: : not found
BDM-42546	マッピングに、式トランスフォーメーションに接続され、Hive ターゲットにリンクされている複合データソースが含まれる場合、マッピングが次のエラーで失敗することがある。 <i>caused by: org.apache.spark.sql.AnalysisException: [DATATYPE_MISMATCH.UNEXPECTED_INPUT_TYPE] Cannot resolve "3[map_keys(lateralAliasReference(3))[0]]" due to data type mismatch: Parameter 2 requires the "INT" type, however "map_keys(lateralAliasReference(3))[0]" has the type "BOOLEAN".</i>
BDM-42514	Hadoop 分散ファイルシステム上の Avro、Parquet、または PDF ソースと HDInsight 5.1 ADLS Gen2 非 Kerberos クラスタ上のデータプロセッサを使用してマッピングを実行すると、マッピングが正常に実行された場合でも、ターゲットにデータが含まれない。
BDM-42459	Spark モードの HDInsights 5.1 ADLS Gen2 非 Kerberos クラスタで圧縮されたソース形式でマッピングを実行すると、マッピングが正常に実行された場合でも、ターゲットにデータが含まれない。

Enterprise Data Catalog の修正された問題（10.5.8）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
EIC-68972	名前に文字 Ñ を含む Oracle ビューを作成すると、ソーステーブルへのリネージュがビューに表示されず、警告が生成される。
EIC-68926	PowerCenter マッピングで Windows ネットワーク共有パスをソースパスとして使用すると、オブジェクト ID 間の不一致により、オブジェクトではなく参照リソースが表示される。
EIC-68909	10.5.7 にアップグレードした後、Enterprise Data Catalog クラスタサービスの開始に失敗する。
EIC-68892	パブリッシュされたデータソースを使用して作成したワークブックをスキャンすると、Enterprise Data Catalog で、Tableau からテーブルではなくスキーマへのリネージュ参照が誤って表示される。
EIC-68887	クラスタード上のスキャナプロセスは、INFA_HOME ルートディレクトリへのインストールを想定しているため失敗する。
EIC-68886	Data Custodian カスタム属性を選択した場合、リソースをエクスポートすると、エクスポートされたデータがリソースのすべてのカラムで誤って NA と表示される。
EIC-68810	引用符を含む複数の単語は、QlikSense アプリケーションで想定どおりに機能しない。
EIC-68640	LdmCustomOptions.scanner.systemScannerMinutelyRecurrence.DataDomain.DataDomainSyncScanner カスタムプロパティを使用すると、データドメインリソースのスケジュールが想定どおりに実行されない。
EIC-68637	ビジネス用語名に/が含まれている場合、ビジネス用語を開いたときには正しく表示されるが、タグ付けされたアセットの「フィールド」タブには誤って表示される。
EIC-68599	SAP HANA の接続テストが次のエラーで失敗する。 A DestinationDataProvider instance can only unregister itself.
EIC-68429	アセット制御のサマリをエクスポートすると、Enterprise Data Catalog はデータのエクスポートに失敗し、エクスポートされたファイルが空になる。
EIC-68420	MetaDex ツールを使用して Snowflake ビューをスキャンすると、Enterprise Data Catalog で完全な Snowflake ビュークエリが表示されない。
EIC-68408	LDAP ユーザーとしてログインすると、リネージュのホップ数がゼロと表示される。
EIC-68407	ビューソースがパラメータ化されている場合、SAP HANA のビューのリネージュが欠落している。
EIC-68259	「Enterprise Data Catalog の概要」の「ビジネス用語」セクションで、文字「/」を含む文字列を使用して検索することができない。
EIC-68247	カスタム選択クエリを含む MITI Tableau スキャンを実行すると、スキャン結果にクエリの一部ではない追加のカラムが表示される。
EIC-68218	Google Big Query リソース内のすべてのテーブルがプロファイリングに含まれ、一部のテーブルが特定のシナリオでスキップされない。

問題	説明
EIC-67956	失敗したスキャンジョブに関連するリソースを Catalog Administrator から削除すると、[監視] タブに失敗したタスクの数が正しく表示されない。
EIC-67673	Webseal プロキシ環境で基本認証を無効にして Catalog UI にアクセスすると、トランスフォーメーションリネージュの取得に失敗する。

実装された拡張要求

以下の表に、実装された拡張要求を示します。

問題	説明
EIC-68908	ICS 起動事前検証ユーティリティには、Numactl のインストールの正常性検査が含まれています。
EIC-68218	Google Big Query リソース内のすべてのテーブルがプロファイリングに含まれ、一部のテーブルが特定のシナリオでスキップされない。
EIC-67755	SAP HANA の計算ビューでは、正規表現付きのソースメタデータフィルタを使用できます。
EIC-66904	Enterprise Data Catalog では、Transport Layer Security バージョン 1.3 がサポートされています。

Informatica Analyst の修正された問題（10.5.8）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDE-5839	バージョン管理されたモデルリポジトリサービスにルール仕様を追加すると、ルール仕様を読み取るプロファイルは、最初の編集に成功した後は編集できなくなる。

Informatica Data Quality の修正された問題（10.5.8）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDQ-10810	Cloudera Data Platform 7.2.18、HPE Ezmeral Data Fabric バージョン 7.2.x EEP 9.2.0、Azure HDInsight バージョン 5.1、Amazon EMR リリースバージョン 7.1.0、Dataproc 2.0 などの Hadoop ディストリビューションで、Blaze モードで一致トランザクションを使用して Informatica Data Quality マッピングを実行すると、マッピングプロセスが失敗し、次のエラーが発生する。 com.informatica.dtm.transport.DTFUncheckedException: [[DtmDTF_0001] Data Transport Error, Origin :[IProxyDTMService :: getSessionExecutionState RPC]

オンプレミス接続の修正された問題（10.5.8）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCON-31634	Salesforce ソースまたはターゲットでマッピングを実行すると、PostgreSQL サーバーはプロキシサーバー設定を使用するため、Salesforce で使用される別のコネクタに影響を与える可能性がある。
OCON-31606	BCI リスナセッションの getTRFCDocNumber() での無限ループとメモリーリークにより、SAP マッピングが応答に失敗する。
OCON-31598	Developer tool の Oracle Kerberos 接続では、[リソースの選択] ウィザードの [すべてのスキーマを表示] チェックボックスが無効として表示される。
OCON-31597	バージョン 10.4 から 10.5.4 にアップグレードすると、モデルリポジトリサービスのアップグレードが次のエラーで失敗する。 com.informatica.repository.persistence.PersistenceObjectException

PowerCenter の修正された問題（10.5.8）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
CORE-11129	ワークフローをリポジトリにデプロイし、再利用可能なセッションをインスタンス化すると、PowerCenter でセッションプロパティ 【これらの実行のためにセッションログを保存】 が適用されない。
CORE-11105	パッチ Linux 3.10.0-1160.129.1.el7.x86_64 を Red Hat Enterprise Linux 7.9 に適用すると、PowerCenter 統合サービスが応答しない状態になる。

問題	説明
CORE-11098	PowerCenter 10.5.1 から CDI-PC に移行すると、ワークフロー内のソースとターゲットのルックアップ接続が変更され、セッションが失敗する。
CORE-11078	サーバーコマンドラインで pmrep ファイルと制御ファイルを使用して、xml ファイルからオブジェクトをインポートすると、コマンドが強制終了され、次のエラーでコアファイルが生成される。 ERROR: Unexpected condition at line:[885]
CORE-11052	PowerExchange for SAP コネクタを使用して作成したマッピングを変更すると、インストールされているプログラムが Designer に表示されない。
CORE-11051	Power Exchange PostgreSQL ソースを使用してワークフロー XML をインポートすると、インポートが検証エラーで失敗する。
CORE-11049	PowerExchange CDC をソースとして、XML ファイルをターゲットとして設定し、ソースデータが増加すると、メモリリークの問題が発生する。
CORE-11041	追加のグループを含むマッピングを VSAM データソースにインポートすると、AMGDSQ はグループ情報の表示に失敗する。
CORE-11040	PowerCenter 統合サービスは応答しないワークフローで待機するため、複数の待機中のワークフローが発生する。
CORE-11039	マッピングにユーザー定義関数への参照を含む式が含まれている場合、PowerCenter 統合サービスは、マッピングと式の依存関係を表示している間応答しないままになる。
CORE-11038	PowerCenter のワークフローが、予期しない永続キャッシュの問題が原因で失敗する。
CORE-11022	ソースで Web サービスワークフローの設定プロパティを変更すると、Web サービス Hub が応答しない状態になる。
CORE-10980	object import コマンドを使用してソースオブジェクトをインポートすると、インポートプロセスはエラーが原因で失敗するが、[インポートのサマリ] には表示されない。

実装された拡張要求

以下の表に、実装された拡張要求を示します。

問題	説明
CORE-11135	PowerCenter 10.1.1 HF1 では、ソースとターゲットの Oracle スキャンがサポートされています。
CORE-10979	AIX 64 ビットシステム用 PowerCenter で、FSCache を設定または調整できます。

プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題（10.5.8）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDE-5839	10.5.6 HotFix バージョンを適用すると、バージョン管理されたモデルリポジトリサービスで次の問題が発生する。 <ul style="list-style-type: none">- チェックアウトしたプロファイルを編集すると、再度チェックアウトするように求められます。プロファイルを変更した後、プロファイルを保存して実行すると、エラーが発生します。- ルール仕様を追加してプロファイルを実行した後プロファイルを編集すると、エラーが発生します。

Test Data Management の修正された問題（10.5.8）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
TDM-30503	ワークフローの生成が <code>java.lang.StringIndexOutOfBoundsException</code> エラーで失敗する。

10.5.8 の既知の問題

このセクションには、10.5.8 で見つかった既知の問題が含まれています。

Data Engineering Integration の既知の制限事項（10.5.8）

以下の表に 10.5.8 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
PLAT-31430	TLS 1.3 暗号を使用したドメインでは、セッションタスク中にログファイルの登録が失敗する原因となるデータ転送エラーが発生する。
BDM-42830	Spark エンジン上の HDInsight 5.1 Kerberos ESP クラスタでマッピングを実行すると、マッピングが失敗し、次のエラーが発生する。 <code>java.lang.NoSuchMethodError: 'org.apache.htrace.core.Tracer org.apache.hadoop.fs.FsTracer.get(org.apache.hadoop.conf.Configuration)'</code>
BDM-42813	Cloudera Data Platform Private Cloud 7.2.18、Cloudera Data Platform 7.1.9、HPE Ezmeral Data Fabric バージョン 7.2.x EEP 9.2.0、Azure HDInsight バージョン 5.1、Amazon EMR リリースバージョン 7.1.0 などの Hadoop ディストリビューションで、Spark モードで Informatica Data Quality マッピングを実行すると、[サマリ統計] ページに期待どおりの結果が表示されない。

ドメインの既知の制限事項（10.5.8）

以下の表に 10.5.8 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
PLAT-31544	ドイツ語ロケールでオフラインモードで Administrator tool から製品ヘルプにアクセスすると、「ページが見つかりません」というメッセージが表示されたり、フランス語ロケールが正しく表示されないことがある。 回避策: 次のリンクから Administrator のオンラインヘルプにアクセスします。 https://onlinehelp.informatica.com/administrator/1058/de/index.htm

Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（10.5.8）

以下の表に 10.5.8 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
EIC-69044	Enterprise Data Catalog で Amazon S3 リソースをスキャンすると、抽出で非構造化ファイルのメタデータの詳細を取得できない。
EIC-68872	Azure Data Lake Storage、Amazon S3、またはファイルサーバーを使用して、ソースとターゲットの両方で CSV ファイルを使用してマッピングを実行すると、拡張子エラーが発生する。

Informatica Data Quality の既知の制限事項（10.5.8）

以下の表に 10.5.8 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDQ-10917	SSL 対応の AIX 環境では、Analyst ツールで例外管理タスクを開くことができない。 回避策: 非 SSL ドメインで例外管理タスクを開きます。
IDQ-10914	Cloudera Data Platform 7.1.9、HDInsight 5.1、EMR_7.1、MapR_7.2、CDP_PC_7.2.18 などの Spark 3.x バージョンを搭載した Hadoop ディストリビューションで、Spark エンジンで Informatica Data Quality マッピングを実行すると、[サマリ統計] ページに期待どおりの結果が表示されない。

10.5.8 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.5.8 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.5.8 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください:

<https://knowledge.informatica.com/s/article/FAQ-What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10-5-8>

累積的な既知の制限事項

このセクションには、前のリリースから引き継がれた既知の制限事項が含まれています。

Data Engineering Integration の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
PLAT-30505	Administrator ツールログのエラーコードをクリックすると、関連記事の代わりに Informatica ナレッジベースのホームページが表示される。
PLAT-30498	Administrator ツールから Informatica ナレッジベースを検索すると、500 内部サーバーエラーが表示される。
BDM-41987	MapR Hadoop ディストリビューションの Avro、Parquet、ORC などの複合ファイル形式をインポートできない。
BDM-39707	アップデートストラテジを使用して Kudu マッピングを実行すると、トランスフォーメーションの検証が失敗する。

Data Engineering Streaming の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5842	Kafka XML データオブジェクトが、「ダッシュ」の付いたフィールドを持つ複合 XML スキーマを検出すると、Hive テーブルへのデータのロードに失敗する。

Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
EIC-66428	エンリッチメント移行ユーティリティで、同じ名前と同じ親を持つオブジェクトのエンリッチメントを移行できない。 回避策: これらのオブジェクトのエンリッチメントを手動でインポートします。
EIC-60369	Enterprise Data Catalog のアドオンアプリケーションを Internet Explorer で開くことができない。

問題	説明
EIC-57719	Docker コンテナイメージを使用して Informatica ドメインを起動し、Enterprise Data Catalog Docker イメージを実行すると、アップグレードが失敗する。
ANT-2187	Administrator ツールで「デフォルトのスキーマを表示」オプションを選択すると、Azure SQL データベースのインポートに失敗する。

オンプレミス接続の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
OCON-31311	PowerExchange for Message Queue を使用して同時ワークフローを実行し、1つのキューからメッセージの読み取りを行うと、メッセージの重複の問題が発生する。
OCON-30444	PowerExchange for Amazon Simple Storage Service バージョン 2（S3 V2）を使用して、複数のパーティションを持つターゲットにデータをロードすると、大幅な遅延が発生する。
OCON-29823	Scala 2.12 を搭載した Spark 3.x で実行される Azure Cosmos マッピングが、Scala バージョンの不一致エラーで失敗することがある。 回避策: azure-cosmos-spark_3-2_2-12-4.6.0-uber など、Azure Cosmos Scala コードバージョン 2.12 を更新します。
OCON-27531	WebSphere MQ ソースとフラットファイルターゲットを使用したメッセージリカバリ用のセッションを構成した場合、PowerCenter 統合サービスは失敗したセッションから未処理のメッセージをリカバリできないことがある。
OCON-27432	アップデートストラテジトランスフォーメーションを使用して完全なプッシュダウンの最適化のために PowerCenter 統合サービスを設定し、2つのテーブルを結合すると、Google BigQuery セッションが失敗する。

サードパーティ 製品に関する既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
OCN-30416	最新の SAP NW RFC SDK 7.5 ライブラリパッチ 11 を使用した単一のセッションで複数の BAPI を使用することはできない。
BDM-42563	Elastic MapReduce 6.4 の式トランスフォーメーションで、フラットファイルソースと日付をミリ秒としてマッピングを実行すると、マッピングが次のエラーで失敗する。 <code>java.lang.NoSuchMethodError: 'int org.apache.spark.sql.catalyst.util.DateTimeUtils\$.millisToDays(long)</code>
BDM-41746	詳細プロパティで Spark 動的割り当てを有効にすると、Spark エンジンで実行されるマッピングが失敗する。
IIS-5702	JSON でフォーマットされ、配列として struct が設定された Kafka ソースを持つマッピングのデータレビュージョブを実行すると、次のエラーが発生する。 <code>org.apache.avro.SchemaParseException</code>